

－ 資 料 －

新築ビジネスホテルの水まわりスペースについて

本保 弘子

Bathroom Plan for New Economy and Budget Hotel

Hiroko HOMBO

要 旨

- (1) 2018年、2019年開業のビジネスホテルの水まわりスペースについて、4都市（東京・京都・大阪・福岡）で、ベッド1台が設置された客室設計を分析した結果、
 - 1) 「ユニットバス（バスタブ・洗面・トイレ）」は約2/3である。
 - 2) シャワーブースまたは洗い場付バスルームは、それぞれ約1.5割である。
 - 3) 洗面台とトイレが設置された脱衣室は約2割あり、シャワーブースまたは洗い場付バスルームに隣接する。
 - 4) トイレ独立は約1割である。
 - 5) 約2割のホテルで大浴場が設置されている。
- (2) 2014年以前に開業した東京都のビジネスホテルでは、「ユニットバス（バスタブ・洗面・トイレ）」は約8.5割、シャワーブースありは1割強である。

キーワード：新築ビジネスホテル New Economy and Budget Hotel

客室 Guest Room

バスルームの設計 Bathroom Plan

シャワーブース Shower booth

1. はじめに

近年、ホテルの新築開業が主に大都市で多く、国内のホテル施設数とホテル客室数は急増している。「衛生行政報告例の概要」¹⁾によれば、平成26年から平成30年までの5年間でホテル施設数は593（6.0%）増加し10,402、ホテル客室数は80,289室（9.7%）増加し907,500室となっている。「観光庁観光産業課 観光や宿泊業を取り巻く現状及び課題等について」²⁾によれば、2018年12月8日以降の開業予定数は729施設、109,317室で、最近5年間の増加を上回る開業が予定されている。開業予定ホテルを地域別に見ると施設数では多い順に東京都、関東（東京都を除く）、近畿（大阪府を除く）、大阪府、客室数では多い順に東京都、大阪府、関東（東京都を除く）である。宿泊予約サイト「一休.com」に掲載されている2018年、2019年オープン of ビジネスホテルのリスト³⁾を4都市と7つの地域別に集計すると、多い順に東京都76、大阪

表 1. 新築ビジネスホテルの地域別掲載施設数（一休 .com）と集計数、2018年12／8以降開業予定数

	東京都	大阪市	京都市	福岡市	北海道 東北	関東 東京都 以外	北陸 甲信越	東海	近畿 大阪市 京都市 以外	中国 四国	九州 沖縄	計
2018年 掲載数	39	39	22	11	21	14	4	16	13	7	7	193
%	20.2	20.2	11.4	5.7	10.9	7.3	2.1	8.3	6.7	3.6	3.6	100.0
集計数	39	39	21	11								110
%	35.5	35.5	19.1	10.0								100.0
2019年 掲載数	37	19	19	6	15	15	10	13	5	10	6	155
%	23.9	12.2	12.2	3.9	9.7	9.7	6.5	8.4	3.2	6.5	3.9	100.0
集計数	37	19	13	6								75
%	49.3	25.3	17.3	8.0								100.0
合計 掲載数	76	58	41	17	36	29	14	29	18	17	13	348
%	21.8	16.7	11.8	4.9	10.3	8.3	4.0	8.3	5.2	4.9	3.7	100.0
集計数	76	58	34	17								185
%	41.1	31.4	18.4	9.2								100.0
2018年 12／8以降 開業予定 注)	160	75			68	78	42	63	85	49	109	729
	21.9	10.3			9.3	10.7	5.8	8.6	11.7	6.7	15.0	100.0

注) 国土交通省 観光庁 HP より 地域別のホテル開業予定施設数（京都市は近畿を含む、福岡市は九州を含む、大阪市の欄は大阪府の集計数）

市58、京都市41となっている。（表1）

新築開業のホテルが多く、ホテル施設数と客室数がともに急増する状況で、ホテル客室の内装インテリア設計についてはどのような変化がみられるのであろうか。今回は、主に水まわりスペースの設計に関して、資料を分析する。バスタブ・洗面・トイレのスペース分離、浴室洗い場、シャワーブースの設置の変化動向について研究する。ビジネスホテルの一般的な水まわりスペースは、洗い場なしのバスタブ・洗面・トイレが1室のユニットバスであるが、新築ビジネスホテルでは多様化の傾向がみられるのかどうかを明らかにしたい。

今回の研究対象のホテルは、新築開業が多い東京都、大阪市、京都市の3都市に地域差を検討するための福岡市を加えた4都市とする。筆者は、東京都から福岡市までの地域の新築ビジネスホテルに宿泊し、建物内と客室内写真撮影、客室内を実測し平面図と展開図の作成、家具図面の作成、水まわりの使い勝手の評価などの調査を継続して実施している。

ホテルの種別としては、ビジネスホテルを研究対象とする。筆者は、ビジネスホテルとは機能的なシングルルームを主とする客室と朝食レストランを備えたホテルであると考え。

「国土交通省 観光庁 宿泊旅行統計調査記入要領」⁴⁾によれば、ホテルとは、洋式の構造及び設備を主とする施設を設け、宿泊料を受けて人を宿泊させる営業で、簡易宿所以外のものをいう。以下の定義により3種類に分類①リゾートホテルは、ホテルのうち行楽地や保養地に建てられた、主に観光客を対象とするもの②ビジネスホテルは、ホテルのうち主に出張ビジ

ネスマンを対象とするもの③シティホテルは、ホテルのうちリゾートホテル、ビジネスホテル以外の都市部に立地するものと記載されている。宿泊予約サイト「一休.com」では、ビジネスホテルの予約ページに出張やカジュアルな利用のホテルと記載⁵⁾されている。

2. 研究方法

宿泊予約サイト「一休.com」のビジネスホテル予約特集・キャンペーンのひとつとして2018年、2019年、2020年ニューオープン（開業予定を含む）のビジネスホテルリスト³⁾が掲載されている。2018年開業193、2019年開業155のうち所在地が東京都、大阪市、京都市、福岡市でシングルルーム、ダブルルーム、クィーンルームなどの客室名称でベッド1台の客室があるホテルは2018年110、2019年75である。この合計185のホテルの客室を研究対象とした。

予約ページに記載されたシングルルームまたはダブルルームなどの客室名称でベッドが1台設置されている客室について、同じホテル内で水まわりスペース（バスタブ・洗面・トイレ）分離が同じ、客室面積の違いが1㎡未満、ベッド幅の違いが10cm未満なら予約室名称は違っても同じ客室タイプとした。例えば、高層階は料金が高めのスーペリアルーム、下層階はスタンダードルームの場合など同じホテルで予約室名称が異なっても、一つの客室タイプとしたものがある。予約室名称が同じシングルルームでも、A室とB室の水まわりスペースの分離が異なる場合や客室面積が1㎡以上、ベッドの幅が10cm以上違えば客室タイプは別とした。その結果、研究対象とした客室タイプは、2018年182、2019年119、合計301となった。この301の客室タイプについて、水まわりスペースの分離タイプ、客室面積、ベッドの幅について、「一休.com」に記載された各ホテル予約ページの客室説明を研究資料とした。その予約ページには、研究対象としたホテル客室の全てで床面積は記載があったが、水まわりスペースの分離タイプとベッドの幅については、一部の客室で記載がなかった。記載がない部分については、宿泊予約サイト「るるぶ」⁶⁾と各ホテルのホームページで調べた。

この研究では、新築ビジネスホテルの客室を主な研究対象としているが、客室設計の変化動向を探るために、新築ではない東京都のビジネスホテルの客室も研究資料とした。「一休.com」のビジネスホテル予約ページ⁵⁾のなかで、新幹線停車駅の周辺（東京駅・丸の内・日比谷・有楽町・秋葉原、品川・田町・芝公園・五反田・大崎・天王洲）を選択するとシングルルームまたはダブルルームのあるビジネスホテルは61あり、そのなかで2014年以前建築のホテルは43であった。ホテルの建築年は「るるぶ」と各ホテルのホームページで調べた。この43のホテルでベッド1台が設置されている84の客室タイプも研究資料とした。

3. 水まわりスペースのプランタイプ

ビジネスホテルの一般的な水まわりスペースは、洗い場なしのバスタブ・洗面・トイレが1室のユニットバスである。新しいバスルームスペースの設計では、バスタブはなくシャワーブー

スの設置、または洗い場付バスルームの設置がみられる。この研究では、水まわりスペースのプランタイプを各スペース分離で以下の5プランタイプとその他とした。

「/」他のスペースと壁、ドア・戸で仕切られ、部屋として分離している記号である。

「・」同じ部屋の中に設置され、部屋分離していない記号である。

I 「ユニットバス (バスタブ・洗面・トイレ)」 (図9)

II 「シャワーブース/洗面・トイレ」 (図10)

独立したシャワーブースに隣接して洗面台とトイレが設置された脱衣室がある。

III 「シャワーブース/洗面/トイレ」

独立したシャワーブースに隣接して洗面台が設置された脱衣室、独立したトイレがある。

IV 「洗い場付バス/洗面・トイレ」 (図11)

独立した洗い場付バスルームに隣接して洗面台とトイレが設置された脱衣室がある。

V 「洗い場付バス/洗面/トイレ」

独立した洗い場付バスルームに隣接して洗面台が設置された脱衣室、独立したトイレがある。

VI 「その他」

今回、研究対象とした客室プランでは、「ユニットバス (バスタブ・トイレ) /洗面」が該当する。ユニットバスの中にバスタブとトイレがあり、洗面台は独立した洗面室ではなくベッドのある室内に設置されている。

(1) 東京都、大阪市、京都市、福岡市の4都市 (図1)

先ず4都市合計でみると、水



図9 「ユニットバス (バスタブ・洗面・トイレ)」



図10 「シャワーブース/洗面・トイレ」



図11 「洗い場付バス/洗面・トイレ」

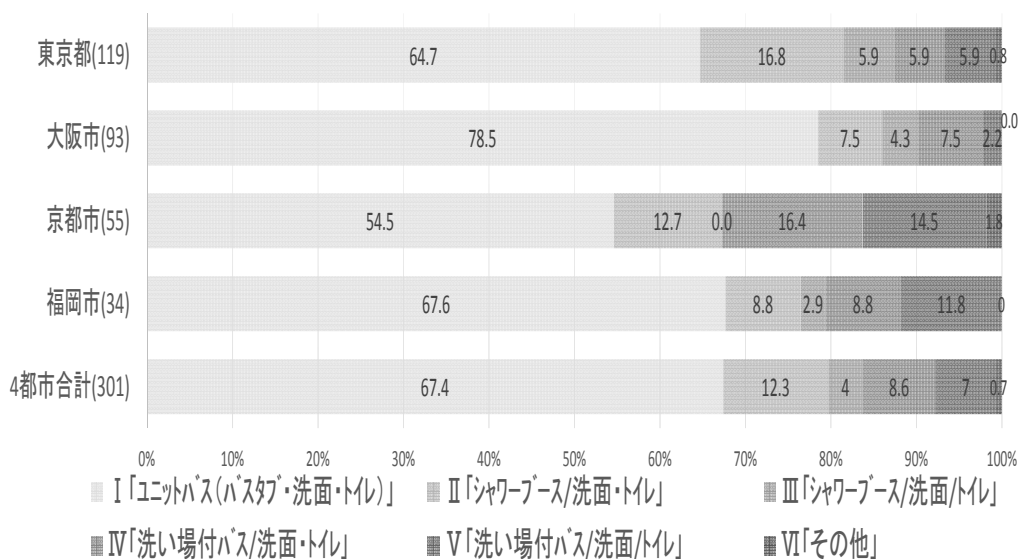


図1 水まわりスペース2018年 2019年

まわりスペースの典型的なプランタイプ I 「ユニットバス (バスタブ・洗面・トイレ)」は 67.4%である。新築ビジネスホテルでは既に約 1 / 3 がこれとは異なるプランタイプであり、そのなかでは II 「シャワーブース / 洗面・トイレ」が最も多く 12.3%、次いで IV 「洗い場付バス / 洗面・トイレ」は 8.6%、合わせて約 2 割が洗面・トイレは 1 室となり脱衣室を兼ねている。II 「シャワーブース / 洗面・トイレ」と III 「シャワーブース / 洗面 / トイレ」を合わせたシャワーブースがあるプランタイプは 16.3%、IV 「洗い場付バス / 洗面・トイレ」と V 「洗い場付バス / 洗面 / トイレ」を合わせた独立した洗い場付バスルームがあるプランタイプは 15.6%で、シャワーブースと洗い場付バスルームは、ほぼ同数が設置されている。III 「シャワーブース / 洗面 / トイレ」と V 「洗い場付バス / 洗面 / トイレ」を合わせたトイレが独立したプランタイプは 11.0%である。

VI 「その他」は今回の集計では「ユニットバス (バス・トイレ) / 洗面」が該当し 2 例 0.7%で、2 例とも独立した洗面室ではなく、ベッドのある室内の机の横または入口ドア近くに洗面台が設置されている。このような洗面台の寝室内設置は新しいプランタイプであり、VI 「その他」の 2 例だけではない。III 「シャワーブース / 洗面 / トイレ」または V 「洗い場付バス / 洗面 / トイレ」として集計した客室タイプのなかで、東京、大阪、福岡各 1 例、計 3 例で独立した洗面室ではなく寝室内に洗面台が設置されている。この 3 例と VI 「その他」2 例を合計して 5 例 1.5%が寝室内の洗面台設置となる。まだ少ないが、独立した洗面室と比較するとスペースの節約が可能であり、今後の増加が見込まれる。

4 都市別にみると、東京都は I 「ユニットバス (バスタブ・洗面・トイレ)」64.7%に次いで多い II 「シャワーブース / 洗面・トイレ」16.8%と III 「シャワーブース / 洗面 / トイレ」5.9%

を合わせたシャワーブースが設置されているプランタイプは22.7%となる。Ⅳ「洗い場付バス／洗面・トイレ」5.9%とⅤ「洗い場付バス／洗面／トイレ」5.9%を合わせた洗い場付バスルームの設置は11.8%となる。4都市平均と比較した東京都の特徴としては、Ⅰ「ユニットバス（バスタブ・洗面・トイレ）」はほぼ同じ、シャワーブースの設置は多く、洗い場付バスルームの設置はやや少ない。

大阪市はⅠ「ユニットバス（バスタブ・洗面・トイレ）」が78.5%で約8割を占める。Ⅱ「シャワーブース／洗面・トイレ」7.5%とⅢ「シャワーブース／洗面／トイレ」4.3%を合わせるとシャワーブースが設置されているプランタイプは11.8%となる。Ⅳ「洗い場付バス／洗面・トイレ」7.5%とⅤ「洗い場付バス／洗面／トイレ」2.2%を合わせると9.7%となる。4都市平均と比較した大阪市の特徴としては、Ⅰ「ユニットバス（バスタブ・洗面・トイレ）」が多く、シャワーブースの設置と洗い場付バスルームの設置は少ない。最も面積が必要なⅤ「洗い場付バス／洗面／トイレ」は少ない。水まわりスペースは面積節約可能なプランタイプが多い。

京都市はⅠ「ユニットバス（バスタブ・洗面・トイレ）」は54.5%で4都市平均より12.9ポイントも少ない。Ⅱ「シャワーブース／洗面・トイレ」は12.7%、Ⅲ「シャワーブース／洗面／トイレ」は0%で今回の研究対象の客室では該当しなかった。Ⅳ「洗い場付バス／洗面・トイレ」16.4%とⅤ「洗い場付バス／洗面／トイレ」14.5%を合わせた洗い場付バスルームの設置は30.9%となる。4都市平均と比較した京都市の特徴としては、Ⅰ「ユニットバス（バスタブ・洗面・トイレ）」は少なく、シャワーブースの設置はやや少なく、洗い場付バスルームの設置が約2倍多い。4都市のなかで最も水まわりスペースは充実している。今回の研究対象とした「一休.com」のビジネスホテルは出張やカジュアルな利用のホテルと記載されていることから、京都市ではカジュアルな観光目的の宿泊が他の3都市より多く含まれるためと考えられる。

福岡市はⅠ「ユニットバス（バスタブ・洗面・トイレ）」は67.6%で4都市平均とほぼ同じである。Ⅱ「シャワーブース／洗面・トイレ」8.8%とⅢ「シャワーブース／洗面／トイレ」2.9%を合わせるとシャワーブースが設置されているプランタイプは11.7%となる。Ⅳ「洗い場付バス／洗面・トイレ」8.8%とⅤ「洗い場付バス／洗面／トイレ」11.8%を合わせると20.6%となる。4都市平均と比較した福岡市の特徴としては、Ⅰ「ユニットバス（バスタブ・洗面・トイレ）」はほぼ同じ、シャワーブースの設置は少なく、洗い場付バスルームの設置は多い。最も面積が必要なⅤ「洗い場付バス／洗面／トイレ」が多い。水まわりスペースは、京都に次いで充実している。

（2）2014年以前開業ホテル東京都と2018年 2019年開業ホテル東京都（図2）

2014年以前開業ホテル東京都は、Ⅰ「ユニットバス（バスタブ・洗面・トイレ）」が86.9%あり、2018年 2019年開業ホテル東京都では64.7%なので22.2ポイントも減少し変化している。

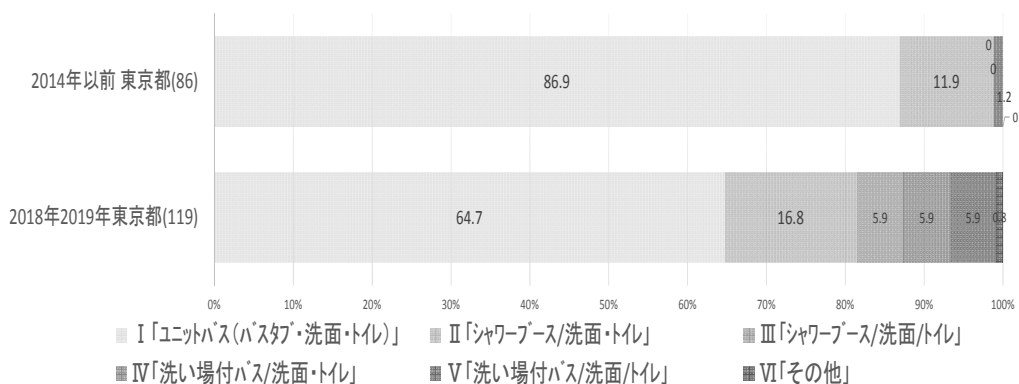


図2 水まわりスペース (2014年以前東京都、2018年 2019年東京都)

2014年以前開業では、シャワーブース設置のプランタイプはII「シャワーブース/洗面・トイレ」11.9%、III「シャワーブース/洗面/トイレ」は1例もなく合計で1割強である。また洗い場付バスルーム設置タイプについては、IV「洗い場付バス/洗面・トイレ」は1例もなし、V「洗い場付バス/洗面/トイレ」は1例のみ1.2%と非常に少ない。2014年以前開業と2018年2019年開業を比較した変化動向としては、まずI「ユニットバス(バスタブ・洗面・トイレ)」が約2割減少した。その代わりにシャワーブース設置が1割強から約2割へ、洗い場付バスルーム設置が1例のみから約1割へ、それぞれ約1割増加した。

4. 客室の面積

12㎡未満からプラス2㎡ごとに集計した。

(1) 東京都、大阪市、京都市、福岡市の4都市(図3)

4都市合計で見ると、最も多い面積区分は「12㎡以上14㎡未満」20.9%、次いで多いのは「14㎡以上16㎡未満」18.6%、以下は「16㎡以上18㎡未満」17.6%、「20㎡以上」16.9%、「18㎡以上20㎡未満」16.3%、「12㎡未満」9.6%の順となっている。12㎡以上の5つの区分はそれぞれ約1.5割から2割の分布で、平均は16.5㎡である。

東京都は平均面積が、15.4㎡で4都市平均の16.5㎡より1.1㎡狭い。面積区分で見ると最も多いのは、「12㎡以上14㎡未満」と「14㎡以上16㎡未満」がともに21.0%で4都市平均のそれぞれ20.9%、18.6%との差は少ない。「12㎡未満」が14.3%で4都市平均の9.6%より4.7ポイント多く、「20㎡以上」が11.8%で4都市平均の16.9%より5.1ポイント少ないことで平均面積は4都市のなかで最も狭くなっている。

大阪市は平均面積が、15.8㎡で4都市平均の16.5㎡より0.7㎡狭い。面積区分で見ると最も多いのは4都市平均より狭い「12㎡以上14㎡未満」で29.0%、同じ区分の4都市平均の20.9%より8.1ポイント多い。4都市平均以上の面積区分「16㎡以上18㎡未満」、「18㎡以上20㎡未満」、「20㎡以上」は合計44.1%に対して4都市合計の同じ面積区分合計は50.8%で、6.7ポイント少ない。

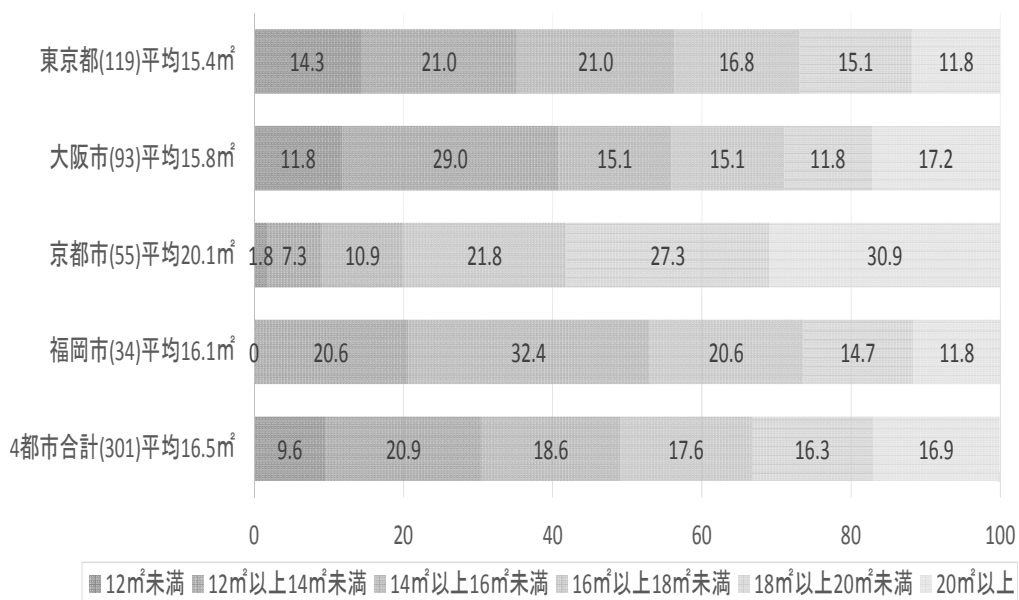


図3 客室面積 2018年 2019年

狭い「12m²未満」が11.8%に対して4都市合計の9.6%より2.2ポイント多いことで平均面積は東京に次いで狭くなっている。

京都市は平均面積が、20.1m²で4都市平均の16.5m²より3.6m²広い。面積区分でみると最も広い「20m²以上」30.9%、次いで「18m²以上20m²未満」27.5%、この2つの合計で58.4%と約6割を占める、4都市合計の同じ面積区分合計33.2%より25.2ポイントも多い。狭い「12m²未満」と「12m²以上14m²未満」の合計は9.2%と1割より少なく、4都市のなかで最も広い平均面積となっている。客室面積をみても水まわりスペースの集計分析と同様に、「一休.com」掲載の京都市のビジネスホテルは観光目的にも適合する面積となっている。

福岡市は平均面積が、16.1m²で4都市平均の16.5m²とほぼ同じ広さである。面積区分でみると「14m²以上16m²未満」が32.4%と約1/3を占める。最も狭い「12m²未満」は1例もないが、4都市平均より広い「18m²以上20m²未満」と「20m²以上」の合計は26.5%と4都市平均の同じ面積区分合計33.2%より6.7ポイント少ない。

(2) 2014年以前開業ホテル東京都と2018年 2019年開業ホテル東京都 (図4)

2014年以前開業ホテル東京都は平均面積が15.1m²、2018年 2019年開業ホテル東京都は平均面積が15.4m²で少し広がっている。面積区分を比較すると、最も狭い「12m²未満」が2014年以前開業20.2%に対して2018年 2019年開業は14.3%で5.9ポイント減少している。次いで狭い「12m²以上14m²未満」も2014年以前開業25.0%と比較すると、2018年 2019年開業は21.0%で4ポイント少ないので、狭い2つの面積区分合計で9.9ポイント減少した。しかし最

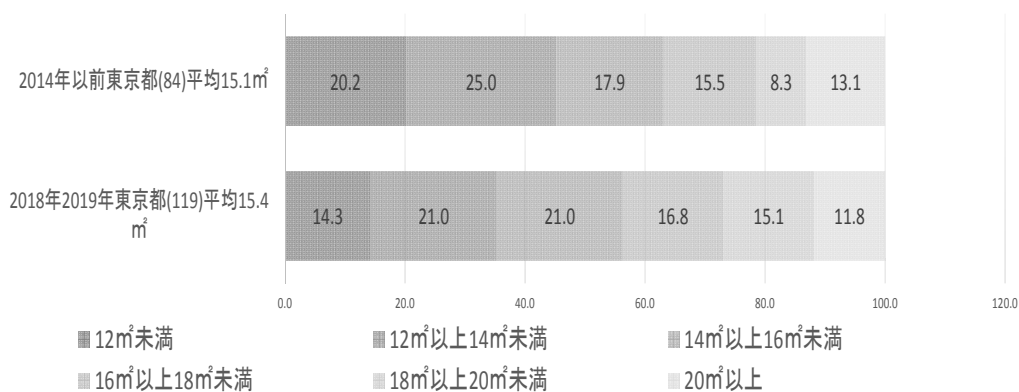


図4 客室面積（2014年以前東京都、2018年 2019年東京都）

も広い面積区分の「20㎡以上」は2014年以前開業の方が1.3ポイント多く、平均客室面積の差は少ない。

5. ベッドの幅寸法

新築ビジネスホテルの客室設計に関する現状と変化動向を把握するために、水まわりスペースに加えてベッドの幅寸法もとりあげる。ベッドの幅寸法は、140cm～170cmが多いことからこの間の集計区分は10cmごととし、「120cm未満」、「120cm以上140cm未満」、「140cm以上150cm未満」、「150cm以上160cm未満」、「160cm以上170cm未満」、「170cm以上」で集計した。

(1) 東京都、大阪市、京都市、福岡市の4都市（図5）

4都市合計でみると、ベッド幅の平均は149.4cmである。最も多い寸法区分は「140cm以上150cm未満」36.9%、次いで多いのは「160cm以上170cm未満」32.6%で合わせると約7割を占め、

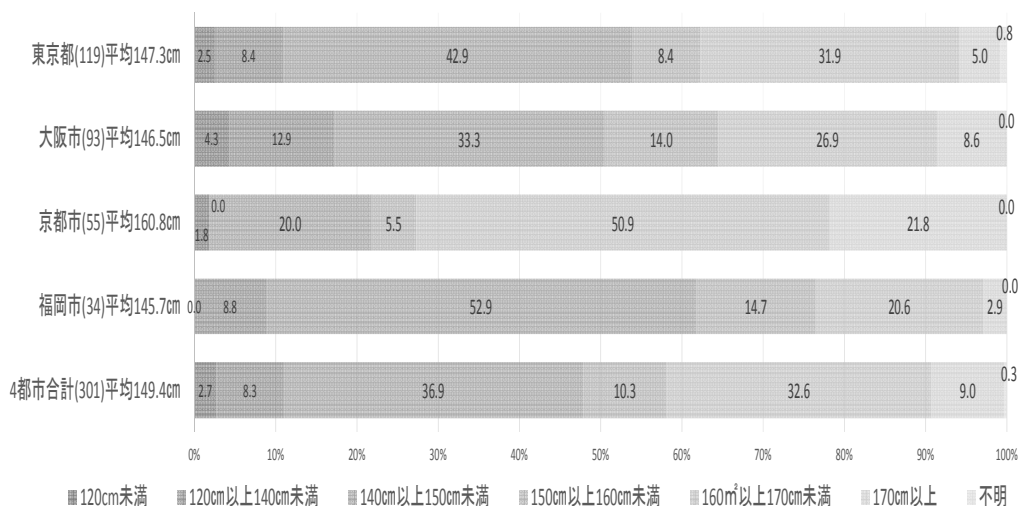


図5 ベッドの幅2018年 2019年

この二つの区分の間である「150cm以上160cm未満」は10.3%と少ない。これは、宿泊予約ページに表示されているベッド幅寸法が140cmと160cmが多く、150cmの表示は少ないことによるものである。「120cm未満」は2.7%と少ない。宿泊予約ページで、ベッド1台の客室はシングルルーム、ダブルルームなどの客室名称となっているが、シングルルームでも、ほとんどの客室で120cm以上のベッド幅となっている。

東京都の平均は147.3cmで4都市平均の149.4cmより2.1cm少ない寸法である。最も多い幅寸法の区分は「140cm以上150cm未満」42.9%で、4都市合計の同じ区分36.9%より6.0ポイント多く、他の3都市以上に140cm表示が多い。

大阪市の平均は146.5cmで4都市平均の149.4cmより2.9cm少ない寸法である。最も多い寸法区分は「140cm以上150cm未満」33.3%であるが、4都市合計の同じ区分36.9%より3.3ポイント少ない。「120cm未満」4.3%と「120cm以上140cm未満」12.9%は、どちらも4都市のなかで最も多い。

京都市の平均は160.8cmで4都市の中で最もベッド幅寸法が大きい。寸法区分では「160cm以上170cm未満」が50.9%と半数以上を占める。客室名称の表示はシングルルームよりダブルルームが多い。

福岡市の平均は145.7cmで4都市では最も少ないベッド幅寸法である。寸法区分では「140cm以上150cm未満」が52.9%と半数以上を占める。今回の資料では、福岡市は東京都や大阪市と比較して客室面積はやや広いが、ベッド幅はわずかだが狭い。

(2) 2014年以前開業ホテル東京都と2018年 2019年開業ホテル東京都 (図6)

2014年以前開業ホテル東京都はベッド幅の平均が139.9cm、2018年 2019年開業ホテル東京都は平均が147.3cmで、7.4cm増加している。幅寸法の区分で最も多いのはどちらも「140cm以上150cm未満」で、2014年以前開業41.7%、2018年 2019年開業42.9%であり、その差は1.2ポイントと少ない。2014年開業は「120cm未満」と「120cm以上140cm以上」を合わせると29.2%で2018年 2019年開業の同区分合計10.9%の約3倍の割合が多い。これは2014年以前開

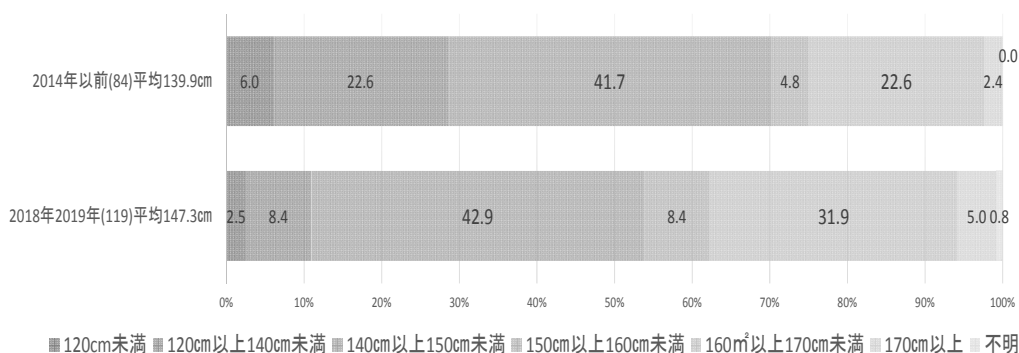


図6 ベッドの幅 (2014年以前東京都、2018年 2019年東京都)

業では、120cmのシングルルーム表示が多いことによるものである。

6. 大浴場の設置（図7）

客室内水まわりスペースの変化動向と合わせて、ホテル施設内の大浴場の設置状況について検討する。

4都市合計では、21.6%のホテルで大浴場を設置している。

都市別では、京都市が最も多く32.4%あり、設置している11ホテル中1例は男女別の二つではなく女性専用で一つのみの大浴場がある。京都市のホテル客室の30.9%に洗い場付バスルームがあり、入浴設備はホテル施設、客室ともに充実している。客室面積、ベッドの幅寸法も他3都市より広く、ベッド1台設置の部屋のみ集計しているが、観光目的2人用宿泊の利用にも適している。

京都以外の3都市では、それぞれ約2割の設置となっている。

2014年以前開業ホテル東京都では設置が少なく7.0%、2018年 2019年開業ホテル東京都では19.7%で、12.7ポイント増加している。

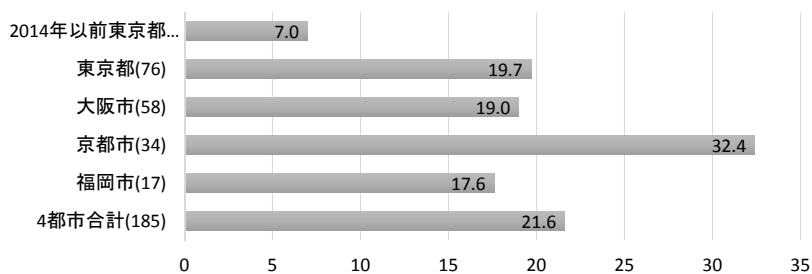


図7 大浴場

7. 客室喫煙可（図8）

今回の研究資料とした全ての客室で、予約ページに禁煙または喫煙と明示されている。

喫煙できる客室は4都市合計で22.2%、京都市が最も少なく8.8%、他3都市は2割強から2.5割であった。2014年以前開業ホテル東京都では喫煙可が多く81.4%もある。ビジネスホテル客室の禁煙化は急速にすすんでいる。

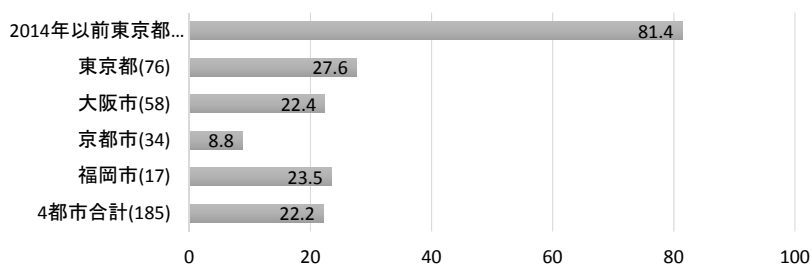


図8 客室喫煙可

8. 新築ビジネスホテルの水まわりスペースの写真

筆者が宿泊して撮影した新築ビジネスホテルの水まわりスペースの写真を以下に示す。

- (1) I 「ユニットバス (バスタブ・洗面・トイレ)」 東京都港区Aホテル2019年開業 (図9)
洗面シンクが小サイズで、バスタブが卵型なので、湯量を節約できる。
ユニットバスの実測寸法は、内法で1600×1100 (CH2050)
- (2) II 「シャワーブース/洗面・トイレ」 東京都中央区Bホテル 2019年開業 (図10)
脱衣室に洗面台とトイレが設置され、隣接してシャワーブースがある。シャワーブースのドアはガラスのため狭さの感じ方が緩和される。
シャワーブース実測寸法は、内法で1320×820 (CH2000)
- (3) IV 「洗い場付バス/洗面・トイレ」 福岡市Cホテル 2018年開業 (図11)
脱衣室に洗面台とトイレが設置され、隣接して洗い場付バスルームがある。
バスルーム実測寸法は、内法で1700×1300 (CH2000)

9. まとめ

- (1) 2018年、2019年開業のビジネスホテルの水まわりスペースについて、東京、大阪、京都、福岡の4都市185ホテルで、ベッド1台が設置された301の客室タイプを分析した結果、
 - ① 水まわりスペースの典型的なプランタイプ「ユニットバス (バスタブ・洗面・トイレ)」は約2/3である。
 - ② 「ユニットバス (バスタブ・洗面・トイレ)」ではない水まわりスペースは、洗面、トイレとは別に独立したシャワーブースまたは洗い場付バスルームがあるプランタイプとなり、それぞれ約1.5割である。
 - ③ 洗面・トイレが設置された脱衣室は約2割にみられる。これは、独立したシャワーブースまたは洗い場付バスルームに隣接する。
 - ④ 「シャワーブース/洗面/トイレ」と「洗い場付バス/洗面/トイレ」を合わせたトイレが独立したプランタイプは約1割である。
 - ⑤ 洗面についてはユニットバス内に洗面シンク、または脱衣室に洗面台が設置されることが多いが、5例で寝室内に洗面台の設置がみられた。
 - ⑥ 4都市別では、「ユニットバス (バスタブ・洗面・トイレ)」が最も多いのは大阪市で約8割、少ないのは京都市で約5.5割である。
 - ⑦ 約2割のホテルで大浴場が設置されている。
- (2) 新築ビジネスホテルと比較検討するために、2014年以前に開業した東京都のビジネスホテルの水まわりスペースについて、ベッド1台が設置された84の客室タイプを分析した結果は、
 - ① 「ユニットバス (バスタブ・洗面・トイレ)」は約8.5割である。

②独立したシャワーブースのある客室タイプは1割強、洗い場付バスルームは1例のみである。

以上の結果から、新築ビジネスホテルでは、これまでの典型的な水まわりスペースである「ユニットバス（バスタブ・洗面・トイレ）」は減少し、洗面、トイレとは別に独立したシャワーブースまたは洗い場付バスルームがある客室設計の増加は続くと考ええる。

参考文献

- 1) 厚生労働省「衛生行政報告例の概要」（2019年10月31日）P 5表4
https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/eisei_houkoku/18/dl/kekka3.pdf 閲覧日（2019年10月31日）
- 2) 国土交通省「観光庁観光産業課 観光や宿泊業を取り巻く現状及び課題等について」（2019年1月28日）P19
<https://www.mlit.go.jp/common/001271444.pdf#search=%27%E8%A6%B3%E5%85%89%E5%BA%81+%E5%9C%B0%E5%9F%9F%E5%88%A5%E3%81%AE%E3%83%9B%E3%83%86%E3%83%AB%E9%96%8B%E6%A5%AD%E4%BA%88%E5%AE%9A%28%E6%96%BD%E8%A8%AD%E6%95%B0%E5%8F%8A%E3%81%B3%E5%AE%A2%E5%AE%A4%E6%95%B0%29%27> 閲覧日（2019年10月31日）
- 3) 一休.com「ニューオープンホテル」
https://www.ikyuu.com/biz/dg/special/fullyear/new_open/start.aspx 閲覧日（2019年10月31日）
- 4) 国土交通省 観光庁「宿泊旅行統計調査 記入要領」（2019年10月）
<https://www.mlit.go.jp/common/001287012.pdf> 閲覧日（2019年10月31日）
- 5) 一休.com「国内宿泊予約」 <https://www.ikyuu.com/biz/> 閲覧日（2019年10月31日）
- 6) るるぶトラベル「宿・ホテル」 <https://rurubu.travel/> 閲覧日（2019年10月31日）